

第3学年〇組 道徳学習指導案

指導者 ○〇 ○〇

1 主題名 友達ならどうする B- (9) 友情, 信頼

2 資料名 絵葉書と切手 (学研)

3 指導観

(1) 価値観

内容項目B-(9)は、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと」をねらいとしている。中学年になると、集団との関わりが増え、友達関係が広がってくる。気の合った友達同士で仲良くしたいという思いが強くなってくる一方で、その場の雰囲気や状況に左右されて相手を考えない言動をしてしまうこともよくある。友情を深めていくには、互いをよく理解し、信頼し合い、助け合っていくことが大切である。そのためには、友達とのよりよい関係の在り方を考えたり、互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりすることが必要であると考え、本主題を設定した。

(2) 児童観

友達が困っている時にはすぐ手を貸す等、友達に喜んでもらえることを素直に嬉しいと思える児童が多く、帰りの会の「友達のよいところ」の発表では、小さなことではあるが、助けてもらったことや優しくしてもらったことがよく話題に挙がる。友達と助け合い、仲良く遊んだり、生活したりすることはできている。

一方で、友達の悪い行為を見過ごしてしまったり、いけないことだと思っても注意できなかったりする様子も見られる。学校生活の中でそのような場面を見た時には、指導をしてきたが、相手を注意するなどの行為を「仲よし」「友情」と結び付けて行動に表すことは難しいようだ。

そこで、「仲良くする」から「互いに理解し、信頼し、助け合う」ことへ意識が向くように指導していく必要があると考えた。友達とのよりよい関係を作るには、相手の立場に立ち、相手のことを考えて行動できることが大切であり、それはときには互いに悪いところを注意し合い、教え合うような場面もあることに気付かせ、本当の意味での「友達」とは何かについて考えを深めさせたい。

(3) 教材観

本資料は、仲良しの友達から届いた定形外郵便物の料金不足について、本人にそのことを知らせるべきかどうかを迷うひろ子が、教えるべきという兄や教えない方がいいという母の意見に揺れながらも、教えることを選択するという話である。

どちらの行動をとっても、相手を思う気持ちが前提にあり、大人でも迷う選択である。「自分だったら」と自分事として考え、判断した理由を交流する中で、人間理解や他者理解を深め、価値の理解に迫っていききたい。

(4) 人権教育の視点との関連

本時の授業では、「自分だったら」と考え、判断した理由を交流することを通して、相手のことを考えることの大切さに気付かせることで、「友達のことをよく考えて、友達を大切にしようとする態度」を育て、利根町の人権教育の視点(3)「一人一人を大切にするための人間関係をつくる。」に迫りたい。

4 本時の指導

(1) ねらい

友達のことをよく考え、互いに信頼し合い、助け合おうとする気持ちを育てる。

(2) 準備・資料

読み物資料、場面絵、心のものでさし、ワークシート、名札

(3) 研究テーマとの関連

「確かな学力を育む学習指導のあり方」

主人公の立場になり「自分だったら」と考える際にワークシートに書く活動を取り入れ、主人公の気持ちに共感させながら、じっくり考えられるようにしたい。

(4) 展開

※人権教育の視点との関連

時	主な学習活動と発問	予想される児童の反応	活動への支援
5	1 葉書の大きさと料金の違いについて知る。		・資料への導入として、実物の葉書を提示し、郵便料金についての理解を図り、興味をもたせる。
3 3	2 資料「絵葉書と切手」を読んで話し合う。 ○絵葉書をもらったひろ子はどう思ったでしょう。 ○自分だったら、正子に定形外のことを教えますか。教えませんか。また、それはどうしてですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・転校しても私のことを考えてくれて嬉しい。 ・美しい景色を私にも見せたいと絵葉書をくれた気持ちが嬉しい。 ・私を喜ばせようとしている ・正子は本当に優しい。 <p>(教える)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らないでいたら、また他の人に迷惑をかけることになってしまう。 ・正子さんのことを考えたら、嫌われても教えてあげた方がいい。 ・正子さんなら、私が怒っているわけではないことを分かってくれる。 <p>(教えない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正子さんは知らなかったのだから、支払ったことは自分が我慢すればいい。 ・知らせて、嫌われたら困る。 ・せっかく私を喜ばせようとしてくれたのに、悲しませてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料全部ではなく、途中まで(ひろ子が決断する前まで)を範読する。 ・補助発問で、二人の関係や友人「正子」の気持ちをしっかり理解させた上で、ひろ子の気持ちに共感させたい。 ・しっかりと状況を理解させた上で、中心発問につなげる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「自分だったら」と考えることで、ひろ子の悩みに共感させ、自分の立場の根拠を話し合うことで、人間理解や他者理解を深める。 ・根拠についてもじっくり考えられるよう、ワークシートに書いてから話し合う。 ・名札と「心のものさし」を活用し、児童の気持ちの強さや変容を可視化する。 ・どちらを選択していても、正子の気持ちを考えた理由を取り上げ、自分の損得で考えるのではなく、相手を大切に思う気持ちが大切であることに気付かせる。 ※相手が嫌な気持ちになるかもしれないことでも、それが相手を大切に考えた行動である場合に気付かせる。 ・道徳的価値を捉えさせるために、主人公の気持ちを考えさせる。
7	3 振り返りをする。 ○今日の学習で考えたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を傷つけてしまうと思ったけれど、ちゃんとやってあげることが相手のためになると分かった。 	

5 発展

日常生活や校外学習などの学校行事を通して、友達のことをよく考え、友達を大切にしようとする態度を養う。